



子どもの健やかな成長をめざし 子育て力向上研修を開催

吉備国際大学南あわじ志知キャンパスで11月26日、研修会「家庭でできる親子で楽しむ基礎運動」が開催され、市内の就学前の児童とその保護者35組が参加しました。

これは子育て力向上推進協議会が昨年に引き続き企画。親子でふれあうことで、子どもたちの健やかな

成長と親子の絆をより深めることを目的に開催しています。

研修は同大学心理学部講師の高田康史さんと学生2人が指導。親子で協力して新聞紙を硬く丸め、それをレジ袋に詰め「レジボール」を作成し、それを投げたり、蹴るなどして楽しく運動しました。



親子でレジボールを作成(右)、レジボールで蹴って運動する親子(左)

かるも海岸で 鳴門海峡クリーンアップ大作戦



きれいな海岸をめざしてこみを拾う参加者

鳴門海峡の周辺環境を守るための清掃活動(クリーンアップ大作戦)が12月3日、かるも海岸で行われ、島内外から約200人が参加しました。

これは鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録をめざし、地域住民や議員連盟で構成する「鳴門海峡」クリーンアップ大作戦実行委員会が今回

初めて企画しました。

参加者は流木やプラスチック容器などのごみを約1時間半かけて拾いました。

活動後には「思ったよりもゴミがあつたが、きれいになってうれしい。このような活動が増えれば良いと思う」とこの活動が世界遺産登録に繋がればうれしく思うなどの声が聞かれました。



丸野さんの話を聞く参加者(上)、みかんの収穫体験(中) 菊の栽培について説明する中尾さんと参加者(下)

市内の魅力伝える 移住体験ツアーを開催

南あわじ市定住促進協議会が主催する「南あわじ市のみかん農家と菊農家に出会うツアー」が12月2日に開催され、阪神間などから南あわじ市への移住を検討している人たちが10人が参加しました。

ツアーでは初めに「NPO 法人灘水仙の里」の丸野登志子代表(灘)を訪問。高齢者の買い物などへの移動支援や、健康講座などの地域交流活動について紹介があつた後、参加者はみかん農園でみかんの摘み取り

などを体験しました。

また菊農家の中尾泰生さん(灘)、山崎光宣さん(灘)を訪問し、花卉農家の仕事内容や暮らしの紹介を聞きました。

最後にあわじ島農業協同組合北阿万支所の武田憲人さんと参加者が農業についての意見交換をしました。

ツアー後、参加者は「新規で農業移住を考えているのでとても参考になった」「市内の違う地域も見学・体験してみたい」などの感想を話していました。

太田結々さん(広田小)の絵画が 環境大臣賞を受賞

朝日新聞社などが主催する第32回「WE LOVE トンボ」絵画コンクールで、広田小学校の太田結々さんが小学2年生の部個人賞で環境大臣賞を受賞しました。



環境大臣賞を受賞した太田さんの作品

これはトンボと自然を守る運動を広げようと毎年開催されており、今年は全国から14万4550点の応募がありました。太田さんは夏休

みの宿題として今回の作品を制作。作品内には元気に飛び回るトンボや羽化しているトンボの絵を描く自身を描いているほか、自然の中で遊ぶ友達が遠近法を使って描かれています。



笑顔で賞状を持つ太田さん

11月28日には、市役所を訪れ、馬部副市長に受賞を報告しました。太田さんは「受賞してうれしい。トンボの羽の透明感を描くのを工夫した。これからも絵を描いていきたい」と話しました。

シンポジウム 農水産品のブランドのエンフォースメント

「地域団体商標」・「地理的表示」の登録後はどう保護されるか!

シンポジウム「農水産品のブランドのエンフォースメント(取締)」を開催します。農水産品のブランド「地域団体商標」・「地理的表示」の登録後の目指すべき姿とともに、不正使用の阻止及び防止をわかりやすく検討していきます。ブランドの模倣品対策は必要であり、対応を間違えると、企業の存続にかかわる問題となります。参加事前申込は不要です。参加費も無料です。

- ◆日時 1月19日(金) 午後2時30分～4時
- ◆場所 吉備国際大学C棟3階 大講義室
- ◆討論内容

- ① 地域団体商標と地理的表示の比較
- ② 商標・地域団体商標、地理的表示におけるエンフォースメント(取締)に関する法制度とそれに向けた権利取得
- ③ 商標・地域団体商標と地理的表示との関係
- ④ 企業が苦慮する原因となっている運用等の問題点と背景

同大地域連携センター 42-4708



バザー収益金を南あわじ市へ寄付

吉備国際大学学園祭チャリティバザー企画担当の宮島大さん(地域創成農学部3回生)が11月16日、バザーの収益金を教育面に活用してほしいと、南あわじ市へ寄付をしました。

宮島さんは、地域に根ざした大学として地域に少しでも還元していきたいと、学園祭でチャリティバザーを企画。バザーの品物は、同大の学生や職員、また繋がりのある地元の人等から集め、2万7300円の収益金がありました。

寄付金は、放課後子ども教室の備品に活用されます。



バザー収益金を守本市長へ手渡す宮島さん